



●田舎の親戚にありがとう

サクラランボが最盛期を迎えた山形の田舎に行ってきました。そこでは、叔父から畑を引き継いだ従兄弟が会社勤めをしながらサクラランボを育てています。

真赤に熟してたわわに実っている可愛らしいサクラランボは宝石のように光り輝いていました。

一年間丹精こめて世話をしたサクラランボは、わずか二週間ほどで終わってしまいます。

周りの畑では後を継いでくれる人がいなくて、木を切り倒してしまったり、実がなくなつたまま放置しているところもあるなか、叔父が大事に育てたサクラランボをより美味しくなるようにと、一生懸命に世話をしている従兄弟を尊敬しました。

また、母に頼まれ親戚の家を何軒か訪ねましたが、親戚を大事にしている母のお陰様で、どこの家でも母の娘ということで歓迎してくれました。

子供の頃は当たり前のように夏休みになればいつも山形へ行っていま

した。一か月以上も私達兄弟3人を預ってくれていた叔父のおおらかさに今更ながら頭が下がる思いです。本当にありがとうございます。

「来年もまた来いよ。」との従兄弟の言葉に送られて帰京しました。久しぶりの山形訪問は家族、親類の絆を改めて感じさせていただいた旅になりました。

(巨黒区/K・N)

●「サクラ」よ ありがとう

長いこと共同住宅に住んでいる。猫の顔ほどの庭の向い側には、馬が這った堀があり、その堀を跨ぐように隣家の桜の木が、こちらの庭にまで大きく枝を伸ばしている。

入居したころは、まだ若木だった桜の木も、よくぞここまで成長したものだと思える日々である。

春の花見時は世俗の賑わいをさけて静かに満開の桜を愛でることが出来る。こんな贅沢はないだろう。

その桜も今は濃緑の葉が繁茂し、木陰を作ってくれている。そして盛夏を迎えるころになると、褐色のふしくれだった幹からは、蟬たちの鳴き声が響き、暑さに拍車をかけることだろう。

そして、その蟬たちの声が止み、秋風が吹き始めるころになると何故か桜木がそわそわし、濃緑の衣から赤や黄色を散りばめた派手な衣装へと衣更えをするのだ。

そんなに着飾って何処へ行く気だろうか？
だが、お洒落をする



のは桜の木だけではない。堀を這っていた馬までもが負けずに、紅や茶や黄色で装いを始める。

その景観はまるでフランス印象派の、シスレーやピサロの絵を彷彿させ、庭一面が大きなキャンパスに变身する季節でもある。

四季折々に表情を変えて、楽しませてくれるサクラよ、これからさき何時まで楽しめるかは分からないが、古木になっても衰えることなく、美しく花を咲かせるおまえを、この老いぼれは見習って生きて行くことにしよう。これからも宜しく。

そして、あ・り・が・と・う。

(巨黒区/H・A)

●元気な声にありがとう

毎朝通る路地。棚の植木や花のお世話をするY家のお嫁さん。

「おはようございます。」
「いつも明るく声を掛けてくれる。花の名前はわからないけど、きれいに咲きそろって、僕をさわやかな気分させてくれる。」

「いつてらっしゃいー」
の明るい声に見送られ、楽しい一日の始まる予感。
ありがとう。さわやかな朝。

(板橋区/S・T)

●いつも笑顔にありがとう

週末になるといつも兄が家族で遊びに来てくれます。兄、義姉、甥っ子、姪っ子の4人です。私が部屋にいとドタドタドタと走る足音がして、「おじちゃんー」と元気の

いい声とともに部屋に飛び込んできます。甥っ子と姪っ子はよく話しかけてくれます。学校であったこと、幼稚園であったこと、今なにが流行っていて、どんな本を読み、どんな遊びをしているのか、など一週間あったことをまとめて話してくれます。

そして、とにかく元気！部屋中を隅から隅まで駆け回り、「疲れないのかな？」と心配になってしまいました。2時間も遊べばこちらが疲れてしまいます。

「少しジツとしてくれると助かるんだけど。」と思うことも時々あります。でも、二人の元気な姿が大好きなので、甥っ子と姪っ子と遊ぶのは疲れますが、辛いと思つたことは一度もありません。

二人は体をこわし、学校や幼稚園を休むこともしばしばあります。それを思えば元気に駆け回れる時は、それに付き合おうというも思っています。

(千葉市/E・Y)

これからは友達との交遊も広まっていき、遊びに来てくれる回数も減っていくことでしょうか。その日が来るまで目一杯いっしょに遊びたいと思っています。

帰り際、いつも二人は大きな声で「バイバイー」と言い、最後まで元気なまま帰って行きます。いつも元気をくれてありがとう。笑顔にしてくれてありがとう。

「じゃあ、また来週。」

(千葉市/E・Y)



●梅の木にありがとう

我が家の梅の木は初めて父が植えてから五十年近くたち、現在では二百本位まで増え、地元で梅農家として販売させていたでいます。



最初の頃は青果市場に出前していましたが、近年の梅ブームもあり、最近では直売所でもとてもよく売れています。

また口伝えて来て下さる個人のお客様も年々増えいき、去年買って下さったお客様が、とても美味しい梅干しが出来たので、今年はお友達の方もお願いし、一緒に買いに来たりもします。

個人のお客様の場合、直接顔を見てお話しすることが出来るので、どうしたらもっと美味しい梅干しや梅シロップが漬けれられるのかなどいろいろな話題が次から次へ出てきて、とても楽しい時間を過ごせます。

今年も青梅の力リカリ漬けを教えていただいたので挑戦してみました。食べられるのを楽しみにしながら、梅の出荷作業に追われる毎日です。梅木を子孫に残してくれた父にありがとう。買って下さるお客様にありがとう。

茨城県/I・Y

●若い親子にありがとう

雲が空に広がり、雨が降りそうだったので、いつもより早く通勤バスに乗りました。親子連れの隣の席が空いて

いたので腰を掛けました。

すると子供がご機嫌斜めでママが困っている様子。

そこで私が、

「僕、早起きで偉いね。頑張っているね。僕、何かなの？」

と聞くと、横顔で指を4本出して見せこう言いました。

「4才なの。ママ、お仕事。僕、保育園。ママも僕もなんて偉いでしょう。」

子供はニコニコ笑顔になり、車内の広告を読み始めました。

「字が読めるの？なんて頭の良い子なんだでしょう。」

子供は元気にになり、目にするものを得意そうに読んでいました。

一緒にバス停で下車すると、今まで黙っていた若いママが、

「褒めて頂きありがとうございます。お陰で子供が元気になりました。」

思いがけないお礼の言葉にこちらも嬉しくなり、

「気をつけて行ってらっしゃい。」

温かい朝のスターになりました。ありがとう。

品川区/K・S



●調度良いお茶をありがとう

夏風邪をひきました。疲れがたまっていたのか、体温は39度を超し、頭はフラフラになり、食事も取れませんでした。

それでも水分は補給しないとイケないと思い、高熱で体も熱っていたせいか、気付けば冷たい飲み物をペットボトルで何本も飲んでいました。

医者からいただいた薬を飲み、丸一日寝込むとあれほど高かった熱が嘘の様に引いて行きました。これなら仕事に戻れると安心したのも束の間、今度は激しい腹痛が襲ってきました。

普段からお腹をこわしやすかったのですが、今回の胃の痛みは過去に経験したことのないほど酷い症状で、胃の中に何かが入るだけで激痛を伴い、うずくまってしまおうほど苦しく、一度痛みが走り出すと歩くこともできませんでした。

何か食べなければ、最低でも水分だけは取りたい。そうは思っても胃の痛みが恐ろしくて、精々熱い飲み物を少しずつ飲むことしかできません。しかし、今は夏ですし、喉もカラカラに渴いていたので、できればゴクゴクと飲み干したい。でも、冷たいものは飲めるはずもない。

そんなジレンマを抱えていると母親が「のどが渇いたらこれを飲みなさい」と水筒をくれました。

中に入っていたのは熱くもなく冷たくもない常温のお茶でした。お腹にもやさしくゴクゴクと飲める調度いい温度だったので、気持良くのどを潤すことができました。

熱くしたかったら沸かして入れればいいですし、冷たくしたかったら冷蔵庫で冷やせばいい。そうではなく、注いだ熱いお茶を常温になるまで冷めるのを待ち、調度気持ち良くゴクゴクと飲める温度になってから差し出してくれた母の気遣いがとてもうれしく、胃にもやさしかったです。

お母さん、心遣いをありがとう。

横浜市/H・I



【携帯 Deショット】

フロリアート2012コンテスト・切り花部門で1席に選ばれたトルコギキョウは「貴公子」と名付けられた八重咲きの花。見事に咲いた若草色の花弁は、豊かな香りを感じさせてくれます。



- 携帯電話の方はQRコードから
 - パソコンの方は下記のURLから↓
 - メールでのご投稿は…
- <http://1039.seesaa.net/>
info@holonics.gr.jp



【編集・企画】株式会社ホロニクス総研・編集部

【原稿をお待ちしています。】

本誌は北海道から沖縄までの友人知人から寄せられた「ありがとう」のことはに因んだ思い、作文、詩、俳句、短歌、写真、絵画などを掲載します。作品は編集部までお送りください。投稿いただいた方には、ささやかな「ありがとう」のメッセージをプレゼントさせていただきます。皆様からの投稿をお待ちしております。また、ご自分のお名前や事業所名を刷り込んで、身近な方やお客様へ配布されてはいかがでしょう。編集へのご意見やご提案がございましたら是非お聞かせください。

